

1 審議会名	上田中央地域協議会
2 日時	令和3年5月25日 午後1時30分から午後3時00分まで
3 会場	中央公民館
4 出席者	天田委員、伊藤委員、石坂委員、大井委員、金井委員、小林みゆき委員、小林芳夫委員、田中委員、谷藤委員、成澤委員、半田委員、平澤委員、増沢委員、町田委員、丸山委員、望月委員、山浦委員、山田委員、山寺委員
5 市側出席者	【事務局】片山地域内分権推進担当係長、近藤中央地域担当主査、芳池地域内分権推進担当主事 【危機管理防災課】星野危機管理防災担当係長、大林危機管理防災担当係長、金井危機管理防災担当係長（消防派遣）
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和3年6月2日

協議事項等

次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 (1)交代委員の紹介
(2)異動職員あいさつ

4 防災問題分科会協議

中央地域の地域課題について

防災問題のテーマごとに分かれて意見交換

【第一分科会：自主防災組織の運営と外国籍市民・高齢者・自治会未加入者等の対応について】

今後のスケジュールを確認

以下、委員からの主な意見

- ・南部自治連のような先進的な取り組みをしている自主防災組織があれば、その防災訓練に参加したい。
- ・5月27日に自主防災組織のリーダー研修会があり、市内全自治会で自主防災組織を作り、市へ組織表を毎年提出するが、研修会参加者は自治会長のみであり、組織表に名前が記載されている本人でさえ理解できていない状況がある。
- ・テーマである「自主防災組織の運営はどうあるべきか」と「弱者救済」の2つの内容について行政、地域コミュニティの角度から考える必要がある。
- ・行政主導の一定の方針があって、それに対して自治会が体制を作って防災訓練等の活動をしていくという姿になっていかないと自主防災組織が機能できるようにはならないのではないか。
- ・テーマである高齢者・外国籍住民・未加入者への対応について、自治会の努力でそういう方に連絡を取りながらやるというのが大事なのだろうが、そういう方達と自治会を結びつけるパイプ役に、行政の力を借りられないか。
- ・外国籍住民とのかかわりについては、すごく根が深い問題。ボランティアで活動しているが、やさしい日本語だけでも行政で対応できれば言葉の問題は全然違ってくるのではないか。
- ・行政の自治会に対する考え方は「任意団体」。今まではそれでうまくいっていたかもしれないが、自治会が

弱体化している今は難しくなっている。自治会も努力するが、行政も責任を持ってほしい。

・外国籍住民の方で台風19号が来たことも知らずに過ごしていたという話があり、そういった情報格差もあることが分かった。

・台風19号の時に外国籍住民に対して行政はどのような支援をしたのか。

・防災会議の委員の中に外国籍の方が入ることができれば全然違うのではないかと。

・次回、AMUの会長と人権男女共生課長を講師として話を聞きたい。

【第二分科会：情報の共有化、避難の連絡網と移動手段について】

危機管理防災課からの説明、意見交換

以下、委員からの主な意見

・台風19号時と同じことを繰り返さないためにも、民間施設等を避難所として利用できるよう準備を進めた方がよいのではないかと。

・上記のように民間施設等を準避難場所として設定する場合、市と自治会で連携して行うことは可能か。

・情報の伝達、受信について機器を上手く使用し、一人一人が不安にならないようにしないといけないのではないかと。

・災害時、何かあった人は自治会長または自治会役員に連絡するというようなマニュアルを作成しておく、問い合わせなどが市に集中せずに済むのではないかと。そのように何ができるかの範囲を検討してもらえばよいのではないかと。

【第三分科会：コロナ禍における避難所とその運営について】

以下、委員からの主な意見

・災害時に、必要な情報をどこに聞いたらよいか分からない。いろいろな主体が、命令ではなく、団体間の協力という形で動いているので、自分たちの目から見ると一体的な動きをしているように見えない。

・自主防災組織のマニュアルも市で作成し、研修会も行っているが、自治会長は数年で交代するので、専門的な立場から3年から4年間、かかわってもらって指導的な役割を担う人が必要である。

・マニュアルの内容通り、各自治会で自主防災活動が可能なのか洗い出しが必要である。

・自主防災組織は危機管理の最小単位。そこで解決できない問題が上のレベルに上がっていく。

・災害が起きれば誰でも不安になる。そういうとき、集まれる場所が一次避難所として、そこで賄いきれない役割を二次避難所が担うということもあり得る。

・実際の災害時には、事前のマニュアル通りには避難できない。

・日頃から、必要なことを言い続けておかないといざというときには機能しない。例えば、炊き出しなどを行う町内の祭りでもオードブルを取ってというように変わっている。

5 その他

次回日程

6月28日（月）午後1時30分

於）中央公民館 2階 第1・2・3会議室

6 閉会